

2010年度

科目名	衛生薬学演習A				
担当教員	谷 佳津治、関 庚善				
配当	薬科4		コード	33081	
開期	後期	講時	水曜日3限	単位数	1
授業テーマ	【必修】 健康の維持・増進に必須の公衆衛生に関連する知識を総括的に学ぶ。				
目的と概要	健康の維持・増進を考えるうえで、ヒトを取り巻く食品、有機・無機化学物質および種々の環境因子がヒトに与える影響を、人体および生態系の機能と関連付けて理解しなければならない。また、それらの影響を細胞レベルや分子レベルで知る必要がある。 本科目では、生化学、毒性学、食品安全学、微生物学、環境安全学、公衆衛生学などで学んだ知識を、演習形式の学習を通じて互いに連携させながら復習するとともに、その理解を深めることを目的とする。				
成績評価法	中間試験50点 期末試験(共用試験)50点				
テキスト	配布資料および指定する教材を使用				
参考書					
履修に当たっての注意・助言	補助教員:田中 慶一、野口 民夫、寺田 知行、西中 徹、見坂 武彦、田中 高志				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コア対応番号	学習領域
1	演習	生体分子と機能:ヒトの成り立ち	1. 生命体の基本単位としての細胞の機能について説明できる。	C8(2)	知識
			2. 細胞を構成する分子について説明できる。	C9(1)	知識
2	演習	生体分子	1. 遺伝子の構造、機能について説明できる。	C9(2)	知識
			2. タンパク質の機能、構造について説明できる。	C9(3)	知識
3	演習	機能調節	1. 生体エネルギーについて説明できる。	C9(4)	知識
			2. 生理活性・シグナル分子について説明できる。	C9(5)	知識
4	演習	ヒトと化学物質:化学物質の生体影響	1. 化学物質の代謝について説明できる。	C12(1)	知識
			2. 化学物質による発がんについて説明できる。	C12(1)	知識
5	演習	化学物質の毒性	1. 化学物質の毒性について説明できる。	C12(1)	知識
			2. 化学物質による中毒とその対処について説明できる。	C12(1)	知識
6	演習	ヒトと食品:栄養素	1. 栄養素について説明できる。	C11(1)	知識
			2. 代謝について説明できる。	C11(1)	知識
			3. 食事摂取基準と日本における栄養摂取の現状と問題点を説明できる。	C11(1)	知識
7	演習	食品の品質と管理	1. 食品の腐敗や油脂の変敗について説明できる。	C11(1)	知識
			2. 食品の保存法について説明できる。	C11(1)	知識
8	演習	食中毒	1. 微生物による食中毒が説明できる。	C11(1)	知識
			2. 化学物質による食中毒が説明できる。	C11(1)	知識
			3. 自然毒による食中毒が説明できる。	C11(1)	知識
9	演習	ヒトと微生物:微生物	1. 真核・原核微生物およびウイルスについて説明できる。	C8(4)	知識
			2. ヒトと微生物の関わりを説明できる。	独自	知識
10	演習	感染症	1. おもな感染症について説明できる。	C10(3)、C11(2)	知識
			2. おもな感染症の予防法について説明できる。	C11(2)	知識
11	演習	ヒトと環境:地球・生活環境	1. 生態系について説明できる。	C12(2)	知識
			2. 水・大気および室内環境について説明できる。	C12(2)	知識
12	演習	環境と化学物質	1. 化学物質の環境内動態について説明できる	C12(2)	知識
			2. 化学物質の生態系への影響について説明できる。	C12(2)	知識
			3. 廃棄物およびその法規制について説明できる。	C12(2)	知識

13	演習	公衆衛生:社会の集団と健康	1. 健康・疾病に関する日本の現状について説明できる。	C11(2)	知識
			2. 保健統計について説明できる。	C11(2)	知識
14	演習	疾病の予防	1. 疫学について説明できる。	C11(2)	知識
			2. 生活習慣病・職業病について説明できる。	C11(2)	知識
15	演習	総括	薬剤師として必要な衛生薬学の基礎知識を修得している。	独自	知識
授業方法					
一般目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
C8(2) C8(4) C9(1) C9(2) C9(3) C9(4) C9(5) C10(3) C11(1) C11(2) C12(1) C12(2)	演習	講義室	2(6)	配布資料、パワーポイント、学習支援システム	90(分)×15回